とうきょう　すくわくプログラム
2025年度活動報告書
杉並西荻窪雲母保育園

テーマ【動き】

設定した理由・背景

広い保育室や遊戯室がある自園の特徴を生かし『動き』をテーマとして設定した。また園内外での活動において子どもたちが動植物やシャボン玉が風にふかれる様といった『動き』に対する興味関心が強いことを感じた。非機械的な動きに触れ、子どもの探究心を更に広げていくために設定した。

用意した環境設定

動植物の動きを感じることが出来る環境を用意した。
戸外：園庭・大宮前公園・園周辺
室内：ダンゴ虫・トカゲ・氷・色氷・新聞紙・落ち葉・感触活動
◎購入品◎
・平均台・センサリーマット・虫かご・シャボン玉・絵本・図鑑・絵の具
・玩具・製氷皿・トランポリン・コンビカー・スピーカー・クレヨン・食紅

活動のあゆみ　10月12月2月に活動を行う。

【１０月】
8日（水）：芝生（落ち葉探し）
16日（木）：落ち葉スタンプ制作
30日（木）：芝生（落ち葉のシャワー）
【12月】
1日（月）：新聞紙（雪に見立てる）
色氷（滑らせる動きを感じる表現活動）
2日（火）・4日（木）25日（木）：園庭（霜柱探し）
11日（木）・18日（木）・25日（木）
：戸外（大宮前公園・園周辺）霜柱探し・落ち葉の雪遊び
【２月】
6日（金）：ダンゴ虫観察
17日（火）：ヤモリ観察
26日（木）：リトミック（動物・昆虫の動きの表現）

❀探究活動の実績❀

初めて保育園に通う環境や今年度は月齢が小さい子どもが多かったことからすくわく活動をより充実させるために１０月から取り組む計画をする。子どもの発達の差がかなり大きいこともあり、活動時は必ず動きを感じられるような言葉かけを丁寧に取り入れる。それでも難しい場合は、購入した絵本や図鑑を用いて導入を行うことでよりイメージを持ちやすい工夫を行った。保育者のイメージを先に伝えることがないように留意し、「どんな風に動いてるかな？」「なにしてると思う？」と子どもの感じた思いに寄り添うことを大切にした。言葉での表現が難しい子どもに対しては、「〇〇みたい？それとも△△みたい？」など質問の仕方を変えたり、発語が盛んな子どもと一緒に活動を行うことで少しでもイメージを持って活動を取り組めるように配慮した。新聞紙や落ち葉を雪に見立て動きを感じる活動では、雪などのキーワードを伝えずに子どもの想像力や発想力を大切にした。子どもたちからは「動いてる」や「紙」などなかなか自然物への興味には繋がることが難しい姿が見られた。保育者が見本を見せることで舞う楽しさや非機械的な動きの楽しさを感じ、新聞紙の上で横になると「つめたーい」と他児と会話を楽しむ姿も見られた。成長とともにイメージがしやすくなり自然物への興味・関心が増した。戸外活動を行うと子どもたちで動きを感じる遊びを展開する様子が見られた。霜柱探しでは「土のお布団には何がいるかな？」と問いかける。少人数ずつ園庭や芝生の端を観察して探索活動を行うと「しもばしらさん」と名前を呼びながら他児と探索を行う。また色氷では氷の動きに着目するのではなく様々な色が混ざり合う動きに注目し色の変化を興奮しながら話す。1月に園庭で土についた霜と霜柱を見つけることができ、手のひらに乗せ溶ける動きを観察することができ、目を輝かせながら見入る様子があった。戸外で見つける生き物だけではなく、職員が飼育しているだんご虫やトカゲを観察を行った。思う存分触れたり、満足できるまで動きの観察を行ったりすることで動物や昆虫になりきるリトミック活動では大いに盛り上がり表現活動をのびのびと行った。

新聞紙の雪
霜柱探しの
様子

色氷の様子

リトミック・昆虫との触れ合いの様子

まとめ

10月から取り組んだことにより、感じたこと疑問に思ったことを汲み取りながら出来る限り子ども主体で活動を展開することが出来たので始める時期を遅くしてよかった。保育者が計画した動きの着目ではなかったり、自由な発想が多いクラスだった為、計画にない事も臨機応変に活動内容を変更し寄り添うことを大切に遊びを設定・展開した。色氷の活動の際、氷の滑り方動きに着目出来るように関わったが色の混ざり具合への興味が強かった。保育者は子どもの発見に寄り添うことを大切に着目点を変え、見つけたことや興味を持ったことに丁寧に寄り添った。言葉での表現も盛んになり感じた思いを伝える楽しさを感じ始めた子どもたちなので、来年度は4月からすくわく活動を毎月取り入れてより深く子どもの探究心に向き合いながら豊かな心を育みたいと思った。

とうきょう　すくわくプログラム
2025年度活動報告書
杉並西荻窪雲母保育園

テーマ【色】

設定した理由・背景

園庭があって様々な自然の色に触れることのできる登園の特徴を生かし、『色』をテーマとして設定する。また、色の名前を覚えて言ったり、好きな色ができたりして、『色』に関する興味が出てきている。子どもたちにとって身近で興味のある色について新たな発見や気づき、面白さを追及するために設定した。

用意した環境設定

保育室で色水や氷遊びができる環境、園内で色探し探検ができる環境、園庭や公園でカラー双眼鏡が使える環境

◎購入物品：クレヨン、絵の具、画用紙、カラーセロファン、水性ペン

活動のあゆみ

【活動実施時間：10:00～10:30】

①6月24日：『どんないろがすき』の歌を歌い、自分の好きな色を発表する。好きな色を折り紙で遊ぶ。

②7月24日：ペットボトルと水、食紅を使って色水遊びをする。

③8月22日：水と絵の具を混ぜて凍らせた色氷で遊ぶ。

④9月30日：園内探索をしながら色探しビンゴゲームをする。

⑤10月29日：トイレットペーパーの芯とカラーセロファンを使ってカラー双眼鏡を作る。

⑥11月30日：水性ペンとコーヒーフィルター、霧吹きを使ってにじみ絵遊びをする。

⑦12月22日：画用紙と絵の具を使ってフィンガーペイントをする。

⑧1月29日：絵の具とストローを使って吹き絵遊びをする。

⑨2月13日：クレヨンと絵の具を使ってはじき絵遊びをする。

❀探究活動の実績❀

今回は『色』をテーマに6月～2月までの9ヶ月間で探究活動を実施した。2歳児クラスに進級した後、自分の好きな色ができて色へのこだわりが少しずつ見られるようになった。最初は子どもたちが好きな『どんないろがすき』の歌に合わせて自分の好きな色をみんなの前で発表をした。ただ「何色が好きですか」と子どもに問いかけるのではなく、親しみのある曲に合わせて好きな色を言うことで緊張することなく楽しい雰囲気の中で発表することができていた。また、好きな色が被っている子同士で「ピンク、同じ色だね」「一緒だね」と言い共感しあう姿が見られた。夏は色氷遊びをし、色氷を使って画用紙の上でお絵描きをすると「溶けてきた」と言いながら氷の色が画用紙につく様子を見て夢中になっていた。秋はカラー双眼鏡を作り、室内でも戸外でも使える玩具を制作した。自分の好きな色のカラーセロファンをつけて双眼鏡を覗き込む姿が見られ「何色が見えるかな？」と保育者に問いかけられると「青色だよ」と言い、青色になった景色をしばらく見続けていた。また、青色以外の色をつけた友だちと双眼鏡を交換し合い、様々な色の世界を楽しんでいた。冬はストローと絵の具で吹き絵遊びをした。ストローの穴に息を吹き込むのが難しい子がいたが、少しずつ慣れて息を吹き込めるようになると画用紙の上で絵の具が広がり保育者と一緒に喜ぶ姿が見られた。その後、子どもが「緑だ」と呟く姿があり、保育者に「青色と黄色が混ざると緑色になるんだよ」と教えてもらうと「そうなんだ」と言って新しい発見を他の友だちに教える姿が見られた。

今回行った9つの活動を通して、以前よりも色に関する知識が増え、制作時に「今日は何をするの」「もっとやりたい」と色の活動に興味や関心を持って取り組むようになったと感じる。最後に、9ヶ月間の活動内容をまとめたパワーポイントを作成し、3月の保護者会にて活動報告を行った。

色氷を使ってお絵描きしている様子

カラー双眼鏡を覗き込む様子

ストローと絵の具で吹き絵を楽しむ

まとめ

成長と共に色の名前を覚えたり好きな色ができたりなど、色に対しての興味関心が深まっている中で『色』をテーマに９つの活動を行った。クレヨンや絵の具を子どもたちが喜んで使う姿を担任が見て「クレヨンと絵の具を使ってはじき絵をしてみよう」など様々なアイデアが思い浮かび、今までとは違う取り組んだことのない色の活動を実施したことにより、子どもたちに新たな発見や面白さを感じてもらうことができたと思う。

また、子どもたちの反応を見ながら保育者も“もっとこうしたら面白いのではないか”と様々な気づきを得ながら遊びを展開することができた。今後も子どもの好奇心・探求心を最大限に引き出せるような遊びを考えていきたいと思う。

とうきょう　すくわくプログラム
2025年度活動報告書
杉並西荻窪雲母保育園

テーマ【　へんしん　】

設定した理由・背景

紙や粘土の形が変わることを面白がったり、ごっこ遊びの中で役になりきる姿が見られた。また、園庭や近隣に公園がある自然豊かな環境や公共施設が複数あり、様々な職業の人や色んな動植物と関わる機会がある。そのなかで虫や植物の変化に気が付き、「なんで？」「どうなるの？」と問いかけながら夢中で観察する姿があった。さらに、自分でできることが増えたことに誇らしさを感じ、「ぼく、わたし、へんしんしたよ。」と伝える子もいた。そんな変化に対する子どもたちの興味関心を更に深めるため。

用意した環境設定

身近な素材や自然に触れながら、「変わる」「混ざる」「できるようになる」といった変化に気付ける環境を整えた。

戸外：園庭、散歩（草花や生き物観察、季節の変化を感じる）

室内：紙・粘土・色・氷などの素材遊び、絵本コーナー（へんしんに関する絵本）

◎購入品

・色鉛筆、布、デジタルカメラ、図鑑（植物、恐竜、虫）、絵本（変身煮関するもの）

6月～２月まで活動を行う。

【6月】
5日（水）：絵本「へんしんトンネル」読み聞かせ
12日（木）：紙あそび（ちぎる・丸める・ねじる）

【7月】
3日（木）：色あそび（色の変化を楽しむ）

【8月】
11日（月）：氷あそび（溶ける変化を観察する）
18日（月）：水あそび（混ざる・流れる変化を感じる）

【9月】
4日（木）：園庭散策（虫や草花の観察）

【10月】
23日（木）：落ち葉あそび（葉っぱの形や色の変化）

【11月】
20日（水）：ごっこ遊び（ヒーローやおばけにへんしん）

【12月】
18日（木）：表現遊び（好きなものになりきる）

【1月】
15日（木）：できるようになったことを振り返る

【2月】
26日（木）：「わたしのへんしんアルバム」制作

❀探究活動の実績❀

子どもたちの興味や関心を大切にしながら、「へんしん（変化）」をテーマに探究活動を行った。絵本の読み聞かせや素材遊びをきっかけに、「変わるってどういうことだろう」「どうしたら変わるのだろう」と子どもたちが自然と興味をもてるような環境を整えた。

紙をちぎる、丸める、ねじるなどの活動では、形が変わる様子を楽しみながら「小さくなった」「おばけみたいになった」など、自分なりの気付きを言葉にする姿が見られた。また、色水遊びや氷遊びでは「まざった」「とけてきた」などの変化に気付き、不思議そうに観察する姿も見られた。

園庭や散歩では草花や虫の様子を観察し、「前と違うね」「葉っぱの色が変わった」など、身近な自然の変化にも関心を向けるようになった。保育者が問いかけたり一緒に見たりすることで、子どもたちの気付きや発見を共有しながら活動を進めた。また、ごっこ遊びや表現遊びでは、動物やヒーロー、おばけなどになりきり、「〇〇になったよ」と友だちと楽しみながら表現する姿が見られた。遊びの中でイメージを広げ、友だちと関わりながら活動を楽しむ様子が多く見られた。

さらに、日々の生活の中でも着替えや身の回りのことなど、できるようになったことを振り返り、「できた」「前よりできるようになった」と自分の成長に気付く姿が見られた。1年間の活動を通して、様々な「変化」に触れながら、自分自身の成長や変化にも目を向けることができた。

最後に、写真や制作物をまとめて「わたしのへんしんアルバム」を制作し、子どもたち自身が1年間の成長を振り返る機会を持った。

素材遊びで形が変わる面白さを感じている。

水・氷を通して変わる様子を楽しんでいる。

友だちと1年間の振り返りをした。

まとめ

今回の活動では、「へんしん（変化）」をテーマに、素材遊びや水・氷遊び、自然観察、ごっこ遊びなどを通して、子どもたちが様々な変化に気付く経験を重ねてきた。紙や水、氷など身近な素材が形や状態を変える様子を楽しんだり、虫や草花の様子を観察したりする中で、「さっきと違う」「こうなったよ」など、自分なりの気付きや発見を言葉にする姿が見られるようになった。保育者は、子どもたちの気付きに共感しながら「どうしてだろうね」「さっきはどうだったかな」などと声をかけたり、一緒に触れたり試したりする中で、子どもたちの興味や発見を広げられるよう関わってきた。また、様々な素材や自然物に触れられる環境を整え、子どもたちが自分なりに試したり考えたりできる時間を大切にしてきた。ごっこ遊びや表現遊びでは、動物やヒーローなどになりきりながら、友だちと関わり合い、イメージを広げて遊ぶ姿も多く見られた。保育者は、子どもたちのイメージに寄り添いながら言葉を添えたり、遊びの場や素材を用意したりすることで、友だちと一緒に楽しめるよう援助してきた。

さらに、日々の生活の中でも着替えや身の回りのことなど、自分でできるようになったことを保育者と一緒に振り返りながら、自分自身の成長や変化に気付く姿につながっていった。

1年間の活動を通して、子どもたちは様々な「変化」に触れながら、自分の成長を感じる経験を積み重ねることができた。今後も子どもたちの興味や気付きに寄り添いながら、身近な環境の中で探究する楽しさを味わえる活動や環境づくりを大切にしていきたい。

とうきょう　すくわくプログラム
2025年度活動報告書

杉並西荻窪雲母保育園

テーマ【　音　】

設定した理由・背景

昨年度行った探究活動において、楽器の音について興味関心を深めることができた。今年度は楽器の音に限らず、さらに幅を広げ多様な音に興味を持ってほしいと感じたため。
また、自然音や人の声など楽器以外の多様な音に出会ったり、様々な手法で発見し表現したり言葉に繋げる事で、音への探究心を深めたいと感じたため。

用意した環境設定

　子どもたちが様々な音や楽器に触れられる環境を用意した。
戸外→大宮前公園、公園までの道中、園庭　　室内→保育室、園内
◎購入物　・ミュージックパッド（8音）×2個・クワイヤーホン（8音）×1セット・ミュージックポン・プー（8音）×2個・聴診器1個・マーチングキーボード1個・パネルシアター用イーゼル・オーシャンドラム・ツリーチャイム・ハンドベル

活動のあゆみ

【6月】9日(月)　大宮前公園：身近な音探し
【7月】9日(水)　ゆり組保育室：楽器、身の回りの音クイズ
15日(火)　ゆり組保育室：様々な楽器の音を聞く
【8月】22日(金)　ゆり組保育室：手作り楽器制作、合奏
【10月】1日(水)　ゆり組保育室：楽器遊び、リズム遊び
【12月】1日(月)、18日(木)、19日(金)
ゆり組保育室：楽器遊び、合奏練習
【1月】15日(木)、16日(金)、23日(金)、26日(月)、27日(火)、29日(木)、30日(金)　ゆり組保育室：合奏練習
31日(土)　うめぐみ保育室：生活発表会で披露

❀探究活動の実績❀

「音ってどこから聞こえるんだろう」「今、どんな音が聞こえるかな」という問いかけから活動を始めた。最初は保育室内で静かに耳を澄ませる時間を作り、「聞く」ことから探究をスタートした。そこから園庭や公園へと活動の場を広げ、「外ではどんな音が聞こえてくるかな」「自然はどんな音を出しているかな」と問いを広げていった。子どもたちが普段は意識していない“身近な音“や“自然音“に気付くことを大切にし、音の存在に目を向ける所から始めた。最初は「何も聞こえない」と話す子もいたが、立ち止まり耳を澄ませる中で、「風の音がする」「葉っぱがカサカサなってる」「バスの音が聞こえる」と少しずつ発見が増えていった。その姿に対して、「どこから聞こえるかな」「大きい音と小さい音はどう違うかな」「今の音を聞いてどんな気持ちになったかな」などと音の特徴や感じ方に目を向けられるような声掛けを行った。その後、音当てクイズを取り入れるとより集中して音を聞こうとする姿が見られた。「さっきより大きい音だった」「これは固いものの音だと思う」など、音を分析するような発言も出てきた。そこから「音ってどうやって作れるんだろう」という疑問へとつながり、手作り楽器の制作へと発展した。手作り楽器制作では、容器の中に入れる素材や量を変えながら「どんぐりは優しい音」「いっぱい入れると大きい音になる」と試行錯誤する姿が見られた。友だちの手作り楽器の音を聞き、「なんで音が違うんだろう」という問いが子どもたちの中で生まれ、振る力の強さや素材、量の違いに気づいていった。手作り楽器を使って合奏やリズム遊びを行う中で、「一緒にやってみよう」「ゆっくりやってみよう」と声を掛け合う姿も見られ、音を通して子どもたちの協調性も育まれていった。その後、本物の楽器に触れる機会を設けると、「きれいな音がする」「ドレミになってる」「どうやって作るんだろう」とこれまでの経験と比較しながら新たな疑問や驚きを持っていた。“身近な音“から始まった探究が、音を作るしくみや楽器そのものへの興味へとつながっていった。
生活発表会での合奏では、音をただ鳴らすのではなく「みんなで合わせる」ことを意識する姿が見られた。「ここは小さく鳴らす」「ここは合わせる」と音の強弱や調和を感じる言葉も聞くことが出来た。活動当初は音を見つけることから始まったが、終盤では音を考える、音を作る、音を合わせるへと探究が広がっていった。自然音、生活音、環境音、手作り楽器、本物の楽器と多種多様な音に触れる中で、音への興味関心が深まり自分なりに表現する力が育まれた。

ミュージックパッドを使い力の強弱による音の変化を感じる様子

聴診器を使い、身近なものから聞こえる音に耳を澄ませる様子

活動を通して、音を意識しながら発表会での合奏練習に取り組む様子

まとめ

　今回の活動を通して、子どもたちは「音は特別なものではなく、常に日常の中に存在している」という事を体感的に学ぶことが出来たように感じる。様々な活動を通して、目に見えない音や振動を聞こうとする姿勢が生まれたことで、より主体的に子どもたちの探究活動へと変化していった。また、保育者が答えを示すのではなく「どこから聞こえるかな」「どんな音にかんじるかな」などの問いを重ね、子ども自身が気づきや発見に辿り着けるように関わった。更に室内から園庭から公園へと環境を広げたり、音当てクイズや手作り楽器、本物の楽器に触れる機会を設けることで、興味関心が継続、発展していくように援助した。その中で子ども同士の会話や関わりが増え気づきが共有されたことにより、探求が広がっていくことを改めて実感した。また、今回の活動で得たことを他領域へと広げていきたい。今回の活動を一過性のものにせず、聞く・比べる・考える・表現するという探求の過程を次の活動にも繋げていきたいと考える。

とうきょう　すくわくプログラム
2025年度活動報告書
杉並西荻窪雲母保育園

テーマ【　　自然　　】

設定した理由・背景

園庭や近隣の公園、そして姉妹園交流で遠方の公園に行く機会のある登園の直腸を活かし、『自然』をテーマとして設定した。また戸外活動の際、公園にある花や葉っぱ生き物に興味を持ち保育者に聞いたり、自分の知っている名前を伝える姿が見られた。また、図鑑や絵本の中に出てくる自然にまつわるものを熱心に読み探究したいという気持ちが見られたため。

用意した環境設定

・園児が直ぐに調べものができるよう図鑑を手の届く場所に置いていた。
懐中電灯×大2、スクリーン1、プロジェクター１、ビニール袋、植物図鑑×3冊、
虫図鑑×3冊、季節の図鑑×3冊　クーピー、絵の具、画用紙、自然物(落ち葉木の実等)
色鉛筆×13　虫眼鏡×13　ライトテーブル×3個　IHヒーター×１個
フォトフレーム×１３個

活動のあゆみ

【６月】　２日（月）大宮前公園：身近な植物、虫探し
【７月】　２４日（木）５歳児保育室：押し花制作、クワガタ観察
　　２８日（月）５歳児保育室：植物観察
【８月】　５日（火）お泊り保育：川遊び、自然散策（トレッキング）
【９月】　１２日（金）大宮前公園：虫眼鏡で植物観察
　　２５日（木）児童遊園：虫眼鏡で虫の観察
　　２９日（月）５歳児保育室：自然物を使った製作
　　（フォトフレーム）
【１０月】　３日（金）児童遊園：虫眼鏡で植物観察
　　１７日（金）園庭：図鑑を使って観察活動
【１２月】２２日（月）５歳児保育室：ミョウバン制作
　　２３日（火）５歳児保育室：ミョウバン観察

❀探究活動の実績❀

活動の始まりでは、保育者が「この虫はどこに住んでいるのだろう」「葉っぱはどうして形や色が違うのだろう」「よく見たらどんな発見があるだろう」と問いかけ、子どもが自然をよりよく見て考えるきっかけを作った。子どもたちは「見てみたい」「もっと知りたい」と興味を示し。虫や植物をよく観察しようとする姿が見られていた。

観察活動の一つとして、ライトテーブルの上にクワガタをのせて観察する機会を設けた。普段とは違う見え方に気付き、「下から光ってる」「影が見える」「足が動いてる」など、新しい発見を友だちと伝え合っていた。保育者は「どんな形に見えるかな」「足は何本あるかな」「光に当たるとどう見えるかな」などと問いかけ、子どもたちが自分の気付き言葉にできるよう関わった。お泊り保育では、川遊びや自然散策を行い、自然に直接触れる体験を広げた。川遊びでは「水が冷たい」「石の下に何かいる」と言いながら生き物を探したり、水の流れや感触を楽しんだりする姿が見られた。自然散策では、「この葉っぱ大きいね」「虫がいるよ」と友だち同士で声を掛け合いながら周囲の自然に目を向け、発見を共有した。また、虫眼鏡を使って葉や花を観察する活動では、「葉っぱの線がいっぱいある」「花の真ん中がふわふわしている」など細かな部分に気付く姿が見られた。保育者が「違う葉っぱも見てみようか」「どこが同じでどこが違うかな」と声を掛けることで、子どもたちは自然物を比較しながら観察するようになった。興味を持った虫や植物については図鑑を用意し、「この虫は図鑑にあるかな」「名前は何だろう」と調べる活動にもつながっていた。植物への関心から押し花制作にも取り組み、「この花はきれいだから残したい」「色が変わった」など、自然の変化を感じながら制作する姿が見られた。こうした活動を重ねる中で、自然をよく見て観察しようとする姿が育っていった。園庭で蒸しや植物を見つけると「図鑑で見たことある」「虫眼鏡で見てみよう」と自分たちから観察方法を考えるすがたも見られるようになった。また、「これは何だろう」「どうしてこうなるのだろう」と疑問を持ち友だちと話し合ったり図鑑で調べたりする姿が増え、自然への興味や探求心が広がっていった。園庭での観察活動、制作活動、お泊り保育での川遊びや自然散策など、様々な経験を通して子どもたちは身近な自然の不思議や美しさに気付き、友だちと共有しながら学びを深めていく姿が見られた。これらの経験は、自然に対する関心を高めるとともに、自ら問いを持ち、観察し、考えようとする探求的な姿に繋がっていた。

園庭でバッタの観察をする様子

川遊びを楽しむ様子

図鑑を使い調べ学習をする様子

まとめ

今回の活動を通して、子どもたちは身近な自然に興味を持ち、観察したり友だちと発見を伝え合ったりしながら学びを深めていく姿が見られた。ライトテーブルでのクワガタ観察や虫眼鏡での観察、図鑑で調べる活動、押し花制作やミョウバンの結晶作りなど、様々な方法で自然に触れる経験が「どうしてだろう」「もっと見てみたい」という探求心に繋がっていた。また、お泊り保育での川遊びや自然散策では、実際の自然環境の中での体験が子どもたちの気づきや関心をより広げることに繋がった。職員から図鑑を持ち戸外での調べ学習の時間がもう少しあると良いという案も出た。来年度に向けては、虫眼鏡や図鑑、ライトテーブルなどを活用した観察環境や、自然物を集めて調べられるコーナーを設けるなど、子どもたちが自ら興味を持ち探求を深めていける環境づくりをさらに工夫していきたい。また、自然の変化や不思議に気付いた際に調べたり試したりする経験を大切にしながら、子どもたちの主体的な学びに繋げていきたい。

とうきょう　すくわくプログラム
2025年度活動報告書
杉並西荻窪雲母保育園

テーマ【　　英会話と異文化　　】

設定した理由・背景

昨年度行った探究活動において、英語や異文化に対して興味関心をもっている。また、給食の献立の中で他国のメニューが出るとその国の国旗や世界地図を見て調べたり、自分の知っている英語を友だちとクイズをしたりして楽しんでいる姿が見られる。保育活動の中でも物や色、顔のパーツなどを英語ではなんて言うのだろうと子どもたちの疑問から探求心を深めていきたいと考えた。

用意した環境設定

・園児が英語に覆う触れられる環境を用意した。
・英語の教材（カード、プリント）　・スクリーン　・プロジェクター
・英語のCD　アルファベット表　・アルファベットカード　・英単語帳

活動のあゆみ

毎週３回　火、木、金

【探求プログラム】

４歳児「お祭り」７月８日（火）
「おもちゃ」１１月４日（火）
「いえ」　３月５日（木）
５歳児「お祭り」７月１１日（金）
「おもちゃ」１１月７日（金）
「いえ」　３月６日（金）

❀探究活動の実績❀

様々な言葉や文化に触れる経験の一つとして、すくわく活動のテーマを「英会話と異文化」とし、遊びや活動を通して英語に親しむ探究活動に取り組んだ。活動の始まりでは、保育者が「英語ではどんな言葉だろう」「日本と海外は何が違うのかな」「英語であいさつはどういうのかな」と問いかけた。すると子どもたちは「Helloって聞いたことある」「テレビで聞いたことある」などの声があったり、英語に対して興味を示す姿が見られた。保育者は「英語で言うとどうなるかな」「みんなで言ってみよう」と声を掛け、英語の言葉に親しむきっかけを作った。

活動の中ではプロジェクターを使用し、フィリピン講師と画面を通して繋がりながら英語に触れる機会を設けた。講師から英語の挨拶や簡単な単語を教えてもらうと、子どもたちは画面に向かって「Hello」と元気に挨拶を返したり、講師の発音を真似して英語の言葉を口にしたりする姿が見られた。保育者は「上手に言えているね」「もう一回一緒に言ってみよう」と声を掛け、子どもたちが安心して英語を発声できるよう関わった。また、英語の単語カードを使って言葉に触れる活動を行うと、「Appleだ」「Dogって聞いたことある」など、子どもたちが自分の知っている言葉を見つけて喜ぶ姿が見られた。プリント活動では絵と英語の言葉を結び付けながら取り組み、友だちと確認し合う様子も見られた。活動の中では、歌やダンスにも取り組んだ。音楽に合わせて身体を動かしながら英語の言葉を口にすることで、子どもたちは楽しみながら英語に親しんでいた。活動の中で、フィリピン講師に質問コーナーを設け、「好きなアイスは何ですか」「好きな恐竜は何ですか」など子どもたちから講師に質問する姿も見られた。保育者は「良い質問だね」と応答しながら、子どもたちの興味関心を大切に関わった。活動を重ねる中で、子どもたちは英語の言葉に親しみを持ち、日常の中でも英語を使おうとする姿が見られるようになった。異文化については、様々な国の挨拶を歌に合わせ覚えた。また「祭り」「おもちゃ」「いえ」というテーマの中で、様々な国の文化に触れることが出来た。「あのおもちゃはどうやって使うのかな」「この国に行ったことあるよ」と興味関心を言葉にし取り組む姿が見られた。今回の活動を通して、子どもたちはプロジェクターを通してフィリピンの講師と交流しながら英語の言葉や音に親しみ、遊びやダンス、カードやプリントなど様々な活動を通して英語への関心を広げていった。英語を「覚えるもの」としてではなく、「楽しく触れる言葉」として体験する中で、友だちと関わりながら言葉の面白さを感じる姿に繋がった。

フィリピンの講師に質問する様子

英語のダンスを楽しむ様子

英語の発音を復唱する様子

まとめ

今回の活動を通して、子どもたちは英語の言葉や音に興味を持ち、親しむ姿が見られた。プロジェクターを通してフィリピンの講師と直接やり取りする経験は、子どもたちにとって新鮮で、英語を実際のコミュニケーションとして感じるきっかけとなっていた。また、カードやプリント、ダンスなど様々な方法で英語に触れることで、子どもたちが自然と英語を口にする姿に繋がっている。一方で、子どもたちの興味や「もっと知りたい」という気持ちを継続していくためには、日常の遊びの中でも英語に触れる環境づくりが大切であると感じた。保育者は活動の中で、子どもたちが発音しずらい単語を伝えたり、単語の意味を日本語にして楽しみながらも理解を深められる環境を整えた。

来年度に向けては、英語カードや絵本などを自由に手に取れる環境を整えたり、歌やダンスを日常の活動に取り入れたりするなど、子どもたちが遊びの中で自然英語に触れれる機会を増やしていきたい。また、プロジェクターを活用した講師との交流の機会を継続しながら、子どもたちが英語で伝える楽しさや異文化への関心を感じられる活動に繋げていきたいと考える。